

「尽きせぬゴッホの魅力」



ゴッホ研究者

しょう だ とも あき

正田倫顕さん

ゴッホのことを最初に知ったのはいつ頃ですか？

おそらく中学生くらい頃です。ほかの多くの人と同じく、私の場合も『ひまわり』を描いた有名な画家というような認識だったと思います。

ゴッホを研究したいと思うようになったのは、大学に入ってからです。ゴッホの絵に打たれたというか、ハッと気づかされたというか。特別な画家として注目し始めたのは、二十歳前後ですね。

正田さんはどのような大学時代を過ごされたのですか？

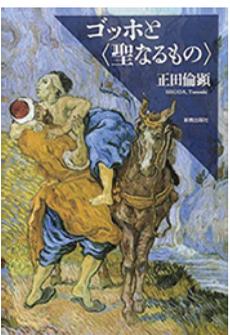
理系の学部に入ったものの、実は悩みや迷いの中にありました。自分は果たして何をすべきなのか。何の役に立つのか。そのまま単位を取って、卒業し、就職する。そうすれば、周りの学生たちのように満足できるのか。私にはもっと根源的で大きな問題があるように思えました。それは、自己とは何か。世界とは何か。そしてなぜ生きるのかということ。そうしたことを考え出したら、分らないことだらけです。何も解決していかないにも拘らず、解決済みとして社会に出て行く。本当にそれでよいのか。

私は簡単に自分をごまかすことができなかった。ゴッホの紆余曲折した人生に惹かれたというところも大きいです。ゴッホが画家になると決めたのは27歳になってからです。大変遅いスタートで、それまで職業を転々としていま

す。親から見ると、ふらふらしているようにしか見えませんが、彼の根底には自己の本分に忠実に生きたいという切実な願いがありました。ゴッホはまさに一筋縄でいかない人生行路を歩んでいます。しかしひたすら自己と向き合い、探究していったことは確かです。私も迷いながらも、ゴッホのように一途に生きたいと願っていました。

実際にオランダのゴッホ生誕の地にも足を運ばれましたね

はい。オランダ南部のズンデルトという小さな村です。ベルギーとの国境に近い場所にあります。ご承知のように、オランダはプロテスタントの国で、ベルギーはカトリック国家です。そのためオランダも南部に行くと、カトリックの勢力の方が強いのです。そのような土地柄で、ゴッホのお父さんはプロテスタントの牧師をしていました。貧しい生活でしたが、ゴッホには兄弟の中で一番教育費を使っています。期待をかけていたことは間違いありません。親としては「普通」の生き方をしてほしいと



正田倫顕著『ゴッホと〈聖なるもの〉』(新教出版社、2017年)

望んでいましたが、ゴッホはそれを完全に裏切るようになってしまいます。しかし彼はほかの誰にもまねのできない、自分なりの人生を築いていきました。本人としては苦しく、辛く、大変な道でありましたとしても、間違いなくずっしりと手応えのある人生です。その生き方は今でも光を放ち、多くの人を魅了します。彼の原点であるズンデルトに足を運ぶことができ、とても感慨深いものがありました。

正田さんにとってゴッホの一番の魅力とは…

「ゴッホと付き合ってきたてつくづく思うのは、知れば知るほど奥深い世界が見えてくるということです。これですべて、これでもなにもかも分かったとは中々思えない。掘り進めば進むほど、新しい発見があります。種田山頭火に「分け入っても分け入っても青い山」という句がありますが、まさにその言葉のようです。

ゴッホの表現した世界、そこに一步步ずつ分け入っていく。いやむしる巻き込まれていく。そうすると、果てしなく新しい景色が見えてくるという感じでしょうか。そのような深い表現があるというのが一番の魅力です。

実際、彼の絵は強烈なインパクトがあり、観る者の心をわしづかみにします。しかし何が私たちを惹きつけ、魂を震えさせてやまないのでしょうか。単に美術史の視点だけではなく、宗教や思想、哲学といった切り口からも

近々、日本でゴッホの作品を見られる機会がありますか？

2021年9月から上野の東京都美術館で「ゴッホ展」が開かれます。アルル時代の『黄色い家』やサン・レミ時代の『夜のプロヴァンスの田舎道』などが展示される予定です。

アルルで描いた作品は静謐で落ち着いた印象ですが、サン・レミ時代の絵は境界線が曖昧になっていく傾向が認められます。エネルギーが渦巻き貫流する世界です。時代ごとに違った作風になっているので、実際に強烈な表現を感じ取って頂ければと思います。

貴重なお話ありがとうございました。



正田 倫顕 (しょうだ ともあき)

1977年生まれ。東京大学教養学部卒業。ベルギー・ルーヴァン大学に留学。ヨーロッパにおいて、ゴッホに関するフィールドワークに従事する。ゴッホの暮らした土地、描いた場所、関連美術館などを隈なく調査する。著書に『ゴッホと〈聖なるもの〉』(新教出版社、2017年)、『ゴッホの《ひまわり》一بارり編(上・下)』(『図書』岩波書店、2020年)など。ゴッホに関する講演多数。NHK文化センター 青山教室、朝日カルチャーセンター 新宿教室など、各地の講座でも好評を博している。